



特集

日本のポップカルチャー

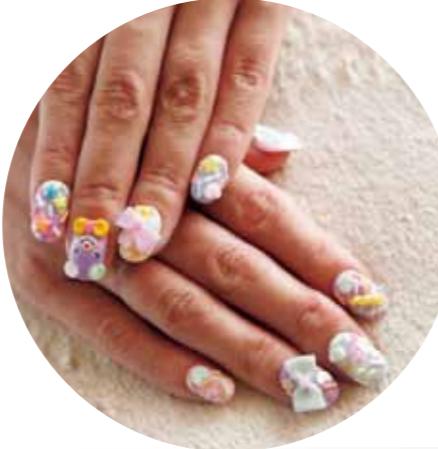
次のステージへ

ファッション、アニメ、漫画といった日本のポップカルチャーは、日本国内にとどまらず、世界各国の若者も虜にしている。こうした文化は、若者を中心に生活中で育まれ、磨かれることによって、一層豊かなものへと成長してきた。ここでは、ポップカルチャーが日本人によって、どのように愛され、楽しめているのか、その現状をレポートする。

Kawaiiカルチャーを世界へ

さまざまなファッションがある日本でも、特に個性派が集うまちとして有名な原宿。そこから登場し、またたく間にスターとなったのが、きゃりーぱみゅぱみゅだ。彼女は、偶然雑誌にスナップされたことをきっかけに、ファッション・モデルに。その人気は今や日本全国、さらには世界へと広がっている。

「原宿のファッションって、誰かの真似をするのではなく、全員にオリジナルの発見、個性がある。あのまちに集まる人すべてが、『自分が自分でかわいいと思う服』を着ている。それって本当はすごく大切なこと。いつか原



写真上: 2012年、東京の日本武道館でワンマンライブを行う、きゃりーぱみゅぱみゅ。(写真提供=アソビシステム)
写真左: アクリル樹脂で作ったリボンやクマなどのパーツを乗せて盛った、立体的な"ぱくぱくネイル"。(写真=千倉志野) 写真下: リアルなスウィーツモチーフのアクセサリーで話題のブランド『Q-pot.』。(写真=kuma)



「ガンダムフロント東京」にある、18メートルの実物大ガンダム立像。

宿だけじゃなく、みんなが好きな服を自由に着られる、そんな日本にならいいなって思います」

2011年にはアーティストとしてデビュー。カラフルでポップ、そしてどこか毒のある世界観を、歌とビジュアルで作り上げた。その唯一無二の魅力は海をこえ、フィンランドとベルギーのiTunesのエレクトロチャートで、日本人として最高位となる首位を獲得した。

Kawaiiがいっぱい!

日本人の“かわいさ”への探求心は底なしで、次々と新しいKawaiiが登場している。その一つが、若い女性を中心に入気を博している、マカロンやケーキ、ビスケットなどのスイーツをモチーフにしたアクセサリー。カラフルでポップ、さらには“おいしそう”な見た目が、その人気のヒミツだ。

また、元はアメリカ発祥だったネイルアートも、日本のKawaiiアーティストと融合して、今やどこの国にもない独特な文化になっている。ネイルアーティストのなかやまちえこさんは、「爪に色を乗せるという感覚が主流の海外と違い、日本人は細かいネイルアートが好きなので、とにかく凝る。そして、流行のスタイルを追求するというよりは、自分の好きなデザインにしたい、という願望が強い気がします」と話す。

ポップカルチャー・ミュージアムへ、ようこそ

人気アニメや漫画の作品に描かれる世界観を間近に見ることができるポップカルチャー・ミュージアムが、日本には各所に存在する。リアルなキャラクターのオブジェや、作中の空間を再現したスペースを楽しめるほか、オリジナルのグッズなども手に入り、子どもから大人まで幅広く愛されている。

その一つが、東京都江東区にある「ガンダムフロント東京」。テーマとなっているのは、モビルスーツと呼ばれる人型ロボット兵器「ガンダム」が活躍する、宇宙を舞台

にした戦争を描いたアニメ『機動戦士ガンダム』だ。施設内には、実物大のガンダムの胸像や、キャラクターと写真が撮れるフォトスポット、制作資料の展示などがあり、作品の世界観を存分に楽しむことができる。

新たな音楽シーンを拓くボーカロイド

日本発のバーチャル・アイドル歌手「初音ミク」の人気が、いま日本のみならず世界へと広がっている。「初音ミク」は、日本の楽器メーカーが開発した音声合成システム「ボーカロイド」のシステムを採用し、パッケージにアニメの登場人物のような少女のイラストを用いて販売したことで反響を呼んだソフトウェアのこと。コンピュータを使って歌詞とメロディを入力すると、思い通りにボーカルやコーラスによる楽曲をつくることができる。ユーザーが思い思いの曲を初音ミクに「歌わせ」、動画投稿サイトなどに投稿したことで、さまざまなパリエーションがネット上に登場している。

初音ミクの人気は、楽曲を集めたコンピレーションCDの発売やライブ公演、企業とのコラボレーションなどによって、生身のアーティストと互角、あるいはそれ以上のものとなった。その人気はインターネットを通じて欧米やアジアへも広がり、アメリカでは2011年に日本車のCMに初音ミクが起用されている。

